県PTA広報とっとり

編集・発行／鳥取県PTA協議会
事務局／〒680-0846 鳥取市扇町21
県民ふれあい会館内
TEL0857-21-2285　FAX 0857-21-0906
E-mail: tori-pta@gamma.ocn.ne.jp
http://www.tottori-pta.net/

子どもたちの未来へ夢を紡ぎ心を育てる
単位PTA活動の実践と絆で結ぶPTA
～きっと見つかる子どもたちへのメッセージ～

― 岩美キッズトライアスロン ―
平成23年9月18日（日）大谷海水浴場で開催された大会の一場面
参加した子どもたちと応援している保護者や地域の人等

あいさつ

本年度、本協議会の会長に就任しました横山隆雄と申します。

子どもたちを取り巻く環境は、私たち保護者が育った時代とは比べものにならないくらい情報化や機器の小型・軽量化が進展しており、例えば、小さいときに電話と言えば固定電話でしたが、移動電話の携帯となり、その後デジタル化されメールやテレビ機能が付加されたカメラ付きケータイとなり、パソコン並みの処理能力や機能を搭載した多機能携帯端末と進化してきました。家庭用のゲーム機も同様でありますし、デジタル化されたテレビも単なる受像器から情報端末へと進化していくこととなるでしょう。

保護者として、それらの変化を正しく理解し、子どもたちをより良い環境で育てられるよう、情報を共有し、共に考え・共に活動できるようにしていきたいと考えております。

本協議会は、日本ＰＴＡ全国協議会等とも連携しながら、県下の郡市Ｐ連合会や単位ＰＴＡの活動を支える重要なポジションを担っていると考えておりますので、今後とも本協議会活動へのご協力をお願いいたします。

東日本大震災義援金　９５０，４５５円
（平成23年10月20日現在）

県内各郡市Ｐ連合会を通じて、日本PTA全国協議会の義援金活動にご協力ありがとうございました。日本ＰＴＡ全国協議会では、今後も被災された子どもたちの支援をしていくことを検討しておりますので、今後ともよろしくお願いします。

65号のおもな内容

●鳥取県ＰＴＡ協議会会長
あいさつ…… 1
●日本ＰＴＡ全国研究大会報告……2・3
●県指導者研修報告…… 3
●行事のお知らせ…… 4
●日韓交流報告…… 4

第59回日本ＰＴＡ全国研究大会　ひろしま大会

きんさい！みんさい！やりんさい！子どもたちの笑顔のために
がんばろう日本！平和な未来へ～ひろしまからの発信～

８月26日（金）、８月27日（土）の両日、第59回日本ＰＴＡ全国研究大会ひろしま大会が広島グリーンアリーナを中心とする県内11会場で開催されました。特に今年は東日本大震災の発生した年に開催される全国研究大会として、復興の地「ひろしま」に集い、全国のＰＴＡ会員が心を一つにする意義ある大会となりました。上記の今大会のスローガンは、この度の被災地を思う私たちの願いであり、これからの復興の力強い支えとなることでしょう。

今、教育で求められている″生きる力″とは、学力向上は無論のこと、判断力・行動力・コミュニケーション能力など社会人として必要な力であり、その力はこの「ひろしま」の地のような恵まれた自然環境の中で多くのことを体験しながら育まれるものだと思います。

私たち大人には、すべての子どもたちが夢や希望の持てる社会を創造する責任を強く自覚し、命の尊さや思いやりといたわりの心を伝え希望に満ちた未来を創造する社会の一員でありたいと思います。

研究大会では、子どもたちが日々直面する課題や問題に対して、私たちＰＴＡ会員がいかに考え、行動することが求められているのか、そして何ができるのかを学びました。互いに学びあった成果を、それぞれのＰＴＡ活動に反映し、子どもたちの教育環境を整える活動を全国的に推進していくことを宣言し閉会となりました。　（藪根彰人）

～大会決議～

- 家庭・学校・地域の連携を深めるＰＴＡ活動を推進します。
- 命の尊さを伝えるＰＴＡ活動を推進します。
- 未来の平和を考えるＰＴＡ活動を推進します。
- おとなの道徳観を高めるＰＴＡ活動を推進します。
- 未来を信じ支え合う力、思いやりといたわりの心を育てるＰＴＡ活動を推進します。

【第４分科会】

第４分科会は、「広報活動」をテーマに三次市文化会館で開催されました。

これまで、PTA広報活動は会員の親睦と活性化を図るという役割が主でありましたが、急激に発達した情報化社会において、子どもたちの健全な成長をみんなで見守るため、地域社会と連携し、必要な情報を精選し、会員に役立つ様々な情報を積極的に発信するためにはどうしたらよいか、効果的な広報活動について考えてみるという視点で開催されました。

まず、基調講演では、広島在住のヴィオラ奏者の沖田孝司氏による「伝え合う」をテーマにヴィオラを弾きながらやさしい口調でコミュニケーションの大切さ、お互い伝え合うことの素晴らしさを話されました。

午後からは、実践発表として、第32回全国小中学校PTA広報紙コンクールで特別賞を授賞された島根県の亀嵩小学校、同じく佳作を授賞された福岡県の延命中学校の二校から実践発表がありました。その後、中国新聞の谷口支局長から講評･助言があり、「身近な存在であり続けるために～地方紙の取り組み」と題して講話がありました。

分科会に参加した皆さんが、これから作成する広報紙に期待をし、翌日の全体会に向け広島市に向かいました。

（山岡英之）

【特別第２分科会】

特別第２分科会は、「生きる力『親が育て学校が磨き地域が鍛える』～今、求められているキャリア教育・職業教育～」をテーマとして福山市学園町の福山大学で開催されました。

福山を代表する伝統工芸品の琴とフルートの演奏・開会式の後に、元夜間中学校教諭の松崎運之助（みちのすけ）氏が「命の光を大きく輝かせるために」と題した基調講演をされました。自身が非常に苦学しながら教師を目指した過程や、夜間中学での様々な人たちとの出会いを通して、「お互いを認め合うこと・違いを認め合うこと、そこには優劣ではなく感動があり、これこそが教育の原点で、また学校とはそのような場でなければならない。」と熱く語られました。

午後の部に先立って、地元サンバチームとＰＴＡメンバーによるアトラクション「ＰＴＡサンバ」。ノリの良いサンバのリズムと派手な衣装や踊りを楽しみました。「キャリア教育・職業教育の推進について」の基調提案の後、福山市立戸手小学校の実践発表（「夢や希望を育むキャリア教育の創造」）と続き、最後にパネルディスカッションが行われました。３Ｋと言われる職場に子どもたちを職場体験として迎え入れ、仕事の本当の面白さややりがいをどう伝えていくかを長年苦労されてきた清川氏の話が印象に残りました。

トータルで５時間程の分科会でしたが、早朝からの街頭誘導や会場内外の多数のＰＴＡボランティア、地元高校生による要約筆記（パソコンに打ち込んでスクリーンに映し出す）、昼食時のスムーズな段取りなど、きめ細かな配慮を感じました。締めくくりで分科会実行委員長が声を震わせながら挨拶されているのを見て、この日に至るまでの苦労に対し思いを馳せて大きな感動とともに会場を後にしました。

（船岡中学校ＰＴＡ　土居孝之）

【全体会】

全体会は、2日目に広島県立総合体育館（広島グリーンアリーナ）で開催されました。

記念講演の講師は、著書「五体不満足」で有名な乙武洋匡（おとたけひろただ）氏。じっくりと聞けば聞くほど大変感銘を受けました。講演のテーマは「みんなちがって、みんないい」でした。小学校教諭としての体験談を皮切りに様々な話を聞くことができました。その中の言葉で「教師も保護者もお互いに《思いを同じくするパートナー》という気持ちを持つことが大切であり、アプローチの方法は異なっても目指すものは同じはずである」という言葉や、子どもに対し心がけていることとして「①子どもの良さを見つけること（気づいてあげること。）②それを褒めて自信をつけてあげること。③その子の良さをまわりにも教えてあげること。これらを踏まえ、誰にだってできること、できないことがある。それをお互い補いながら支えあって生きていくことが大事。」という言葉を聞き、今一度、私たち保護者が何をしなければいけないかと考えさせられました。そして何より、すぐにでも実行に移していきたい気持ちが沸き立ったのも事実です。

そのあとの復興支援コンサートが開催され「キャンディ」「シャドー・ボクサー」など1977年当時に圧倒的に人気を得た原田真二（はらだしんじ）氏が熱唱され、この頃に青春時代

を過ごした私にとっては非常に懐かしく?思いました。

全体会の最後は東日本大震災の復興を願い「ＰＴＡとしてできること」「ＰＴＡしかできないこと」を大会決議に組み入れ、参加者全員で「Believe（ビリーブ）」を合唱して終了いたしました。

最後に、今回の全体会での経験は大変勉強になりましたが、あわせて一緒に行動を共にした鳥取市内の小学校・中学校のＰＴＡ会長をはじめとする役員の皆さまと強い絆で結ばれたことは私にとって最高の財産となったと感じています。

（米原隆生）

【ＰＴＡ指導者研修が開催される】

県ＰＴＡ指導者研修が、県内を東部（７月16日（土）県民ふれあい会館）、中部（７月９日（土）倉吉未来中心）、西部（８月７日（日）県立武道館）の３地区において開催されました。

この研修は、家庭・学校・地域をつなぐ重要な組織である単位ＰＴＡの役員を対象に、現代的課題をふまえながら指導者としての資質の向上を図り、役員から単位ＰＴＡの会員に研修内容を広げていき、ＰＴＡ活動の活性化、子ども達の基本的生活習慣の定着化、学習環境の整備を図ることを目的として、本年度から県補助事業として県ＰＴＡ協議会が主催して開催したものであります。

東部会場においては、あいさつ及び県事業説明の全体会に続き、３分科会に分かれ①「ＰＴＡ活動の活性化」をテーマに県教育委員会家庭・地域教育課の藤山正明氏をコーディネーター、鳥取市立遷喬小、同美保小、同日進小、同福部中の各代表者をパネリストに迎えてパネルディスカッション、②「ケータイ・インターネット教育啓発の手法」をテーマに県教育委員会家庭・地域教育課福田範史氏を講師に迎えての講演とワークショップ、③県教育委員会東部教育局松本洋介氏を指導者として「人権学習プログラム」の参加型演習を実施しました。

中部会場においては、３分散会に分かれ、①「ＰＴＡ活動の活性化について」をテーマに元智辯学園和歌山中学校長・高等学校副校長の吉田則彦氏を迎えての講演とトークディスカッション、②「ケータイ・インターネットの光と影」をテーマに県教育委員会家庭・地域教育課福田範史氏を講師に迎えての講演とワークショップ、③県教育委員会が策定したＰＴＡ人権研修のための人権学習プログラムの「猫の世界」をテーマとし県教育委員会中部教育局大本陽一氏を指導者に迎えてのワークショップを実施しました。

西部会場においては、全体会において「単位ＰＴＡ活動推進」をテーマとし、米子市立和田小、境港市立第１中学校の代表者による実践発表、「広報紙の作成について」をテーマとし、米子市立伯仙小学校、大山町立名和中学校の代表者による実践発表の後、分散会に分かれての意見交換会を実施しました。

いずれの会場においても、来年度以降も開催を望む声が多く聞かれ、協議会としてもさらに内容を充実させながら、年度の早い時期での開催に向けた検討・準備をしていきたいと考えております。

（横山隆雄）

【お知らせ】

平成23年度　鳥取県ＰＴＡ研究大会

期　　日　**平成23年12月10日（土）　12：30～16：00**
会　　場　**三朝町総合文化ホール　三朝町大字大瀬999－２**
大会日程

12：00	12：30	12：45	13：00	14：00	14：30	15：30	16：00
受　付	アトラクション	開会式	講　演	県委託事業の説明	県委託事業実施報告	講評閉会式	

アトラクション　**三朝東小学校児童による「行者太鼓」**
講　　演　**「スポーツを通して養う食と心身の成長」**
講　　師　**小原　工　氏**（米子市観光協会・プロトライアスリート/コーチ）
委託事業実施報告
発表　智頭町立智頭小学校ＰＴＡ　　米子市立住吉小学校ＰＴＡ
倉吉市立明倫小学校ＰＴＡ　　日野町立黒坂小学校ＰＴＡ
〃　上灘小学校ＰＴＡ　　八頭町立船岡中学校ＰＴＡ
講　　評　**鳥取県教育委員会事務局　家庭・地域教育課長　高橋　紀子　氏**

【日韓交流事業報告】

「日韓家庭・地域教育交流が再開」

1995年に鳥取県教育委員会と江原道教育庁は姉妹提携を締結し、教育長と教育監、児童生徒・教職員・保護者など様々な相互交流を実施してきました。2005年以降竹島問題などで交流を中断していましたが、今年度から再開することになり、高等学校PTA連合会・県PTA協議会・県教委９人で参加してきました。

韓国滞在は正味２日間で、江原道教育監表敬訪問から始まり、学校運営委員会委員長協議会・春川女子中学校・江原道幼児教育振興院・綿温初等学校の訪問とハードスケジュールでしたが、選挙で選ばれた教育監のマニフェストである無償給食の実施・高校入試制度の改善・生徒の人権改善などの推進事業の成果を目指し、保護者・教師・地域の代表からなる学校運営委員会という組織や、保護者会など地域と一体となって子どもの教育に取り組んでいることなど直接感じました。

また、意見交換の中では、ケータイ・インターネットなどは両国共通の問題でしたが、音楽や辞書などのソフトの活用には親の方が利便性を感じて買い与えていたり、より良い教育環境を求めて転校させ「かもめの親」といわれる単身で生活する父親は少なくなかったり、全般的に親の教育熱は韓国の方が数段高いように感じました。ただ少し個人的には、過剰のように思いました。

随行して下さった江原道の教育庁の方が非常に友好的で、国と国も大事ですが、人と人との交流が大切なのだと改めて感じました。言葉は通じなくても、身振り手振りでなんとかなるものです。（わかった気でいるのは私だけ？）来年は韓国から来県される年となっています。日本流の心からのもてなしを計画しましょう！！

追伸：米子からだと飛行時間わずか１時間ちょっとの本当に近い、お隣の県のような韓国でした。マッコリ（お酒）やキムチなど食事も楽しく頂きました。（山本和代）

編集後記

先日、子どもが通っている小学校の相撲大会が開催されました。郡部の小さな小学校ですが、屋根付きの立派な土俵があります。

私が小学生の時は相撲部があり、毎週練習していたのですが、教えていただく先生がいなくなってからは、年１度の相撲大会となりました。

子どもが相撲で一生懸命頑張った結果、勝っては喜び、負ければ泣く子どもがいて、私は行司をしていながら、間近で見て感動しました。

陸上、水泳、球技では苦手な子どもでも、相撲では負けない子どももいて、他の競技では味わえなかった、達成感があったと思います。

子どもの特徴を生かせるよう、色々なものにチャレンジしていく事が、大事な事だと実感しました。（内田雅之）

広報委員会

委員長	藪根　彰人	
副委員長	米原　隆生	
委　員	横山　隆雄	山本　和代
〃	山岡　英之	内田　雅之
〃	上田　政彦	青木　一憲
〃	橋本　香織	竹尾あけみ
〃	中嶌千賀子	川口　玉世
〃	芦田記代美	車井　育子